

DATA：患者支援センター

●部門：連携事務部門（事務員）、患者相談部門（医療相談員〈MSW〉・がん看護専門看護師）、在宅療養支援部門（看護師）、退院支援部門（看護師）、ベッドコントロール部門（看護師・事務員）



◀患者支援センター HP

患者さんの療養生活を支援する 入院支援相談室を新設

外来受診から入院、退院後の生活まで、患者さんとご家族が安心して治療に専念できるように、多方面からサポートしているのが「患者支援センター」です。当センターには、連携事務部門、患者相談部門、在宅療養支援部門、退院支援部門、ベッドコントロール部門の5つの部門があり、医師1名と看護師18名をはじめ、医療相談員（MSW）4名、事務員4名が在籍しています。

なかでも在宅療養支援部門では、予定入院の患者さんを対象に入院支援面談を行っています。以前は面談を各診療科の外来で行っていましたが、2023年7月より外来棟1階ロビーに入院支援相談室を新設し、1か所に対応することが可能となりました。現在、12診療科*の患者さんを対象に相談を実施していますが、2024年3月下旬をめどに、小児科と産婦人科を除いたすべての診療科に対応できるよう進めています。

*内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科



入院支援相談室の看護師



入院支援相談室

入院前から在宅療養まで切れ目のないサポートを

患者支援センター センター長の大木貴博副病院長・内科部長（右）、
地域医療連携室室長の市野由香副看護部長（左）

入院前から情報収集し 質の高い入院治療を

入院支援相談室では、予定入院が決まった患者さんに入院までの過ごし方や入院生活のオリエンテーション、注意事項についてご説明しています。相談にあたるのは、在宅療養支援部門に在籍する看護師で、全員が院内資格の「在宅療養支援看護師」を取得し、在宅における療養生活の専門知識・スキルを持っています。患者さんやご家族からは、ご心境や社会的状況をお伺いするほか、入院や退院後の生活、経済的な面などでご不安がないかお尋ねし、入院や治療に対して様々な心配事を抱えた患者さんをサポートしています。

また、褥瘡・栄養・転倒転落リスクなど、入院時に必要な身体的アセスメントも行っています。例えば転倒転落リスクが高い患者さんは、ベッドコントロール部門と連携し、ナースステーションに近い病室を確保しています。入院支援相談の時にお聞きした情報を当相談室が入院前に患者支援センター内だけではなく、担当医師・病棟看護師・関係する多職種のスタッフと共有することで、患者さんが安心して入院生活を送れ

院外施設と連携を図り垣根のない地域医療を目指す

患者支援センター

るように院内の体制を整えておくことが可能となります。その中で疑問や問題が生じた場合は、大木センター長が医療的アドバイスや調整にあたります。

退院後を見据え地域医療へつなげる

入院前に伺った情報は退院支援部門へ引き継がれ、介護保険申請の相談や訪問診療・訪問看護の手配などの支援につなげていけるよう活用しています。さらに、退院後も患者さんやご家族が引き続き安心して生活できるよう、かかりつけ医やケアマネージャー、地域包括支援センター、訪問系サービスなどの院外施設とも共有していきます。

このように患者支援センターでは入院中だけでなく退院後の療養生活を見据えた支援を行っています。退院後はリハビリ病院への転院、施設入所、在宅療養などの選択肢がある中で、患者さんやご家族のご希望を伺い、退院時に予測される身体状況を考慮しながら最適な療養生活について一緒に考えていきます。

超高齢社会の中で切れ目のない地域医療を実現するために

超高齢社会を迎え、患者さんへのきめ細かな支援がさらに必要とされています。例えば認知機能が低下し病状の理解が難しい患者さんには対面で理解度を確認しながら面談しています。また、病気を併発されている患者さんも多く、複数の医療機関との連携が必要なため、地域の先生方のご協力が不可欠です。

そこで情報交換の場として、地域の先生方をお招きし当院をご紹介します「市川リレーションシップカンファレンス」や、地域の先生にご登壇いただく「地域連携セミナー」を対面とオンラインのハイブリッドで定期的で開催しています。コロナ禍で一度途切れてしまった「顔の見える連携」を復活させたいと思っています。

病状が落ち着いた患者さんは地域医療機関の先生方へ診療の継続をお願いしております。患者さんが安心して住み慣れた地域で療養生活を送れるよう、地域の先生方と情報共有を行いながら垣根のない関係性を構築し、安心して患者さんをご紹介いただける病院を目指してまいります。

Dr's profile

Takahiro Ooki

大木 貴博 副病院長
内科部長(右)
患者支援センター センター長

Yuka Ichino

市野 由香 副看護部長(左)
患者支援センター 地域医療連携室室長



出身地

大木：東京都杉並区荻窪
市野：千葉県浦安市



医師になったきっかけ

大木：理系で医学に興味があったため医師の道へ

趣味

大木：ひとり旅に出かけて一眼レフで写真を撮ること。旅先で風景写真を撮っているときに心休まる癒やしの時間
市野：ホットヨガ。ヨガ歴は1年半ほどで、仕事が終わった後に多いときは週5で通い、心身の疲れをリセットしている

看護師になったきっかけ

市野：手に職をつけられ、一生働ける仕事として看護師に



スポーツ歴

大木：小学校は剣道部、中学校はテニス部、大学で馬術部に所属
市野：中学・高校はバレー部。以前はママさんバレーにも所属していた

好きな言葉

大木：「自然は偉大なるアーティスト」。趣味の風景写真を撮っているときに感じる言葉
市野：「楽しいから笑うのではない、笑うから楽しい」。つらいことがあっても笑って楽しく生きようという原動力になる言葉

【掲載写真について】感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

『issou』では毎月読者アンケートを行っております。広報誌の質向上のため、下記二次元コードよりアンケートの回答へご協力をお願いいたします。



本号に関するご意見をお寄せください



医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書 検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～12時(第2土曜日は休診日)